

総会だより

認知度向上を

JER補改修協会

JERコンクリート補改修協会（佐藤匡良会長）は8月1日、都内ホテルで2024年度定期総会を開いた。23年度事業報告・決算および24年度事業計画・収支予算などを審議し、承認した。



佐藤匡良会長

総会であいさつに立った佐藤会長は「原材料や資材、エネルギー価格の

啓発活動に注力

JER補改修協会 管路部会

JERコンクリート補改修協会管路部会（井上敬介部会長）は8月1日、都内ホテルで2024年度部会総会を開いた。23年度事業報告・決算および24年度事業計画・収支予算などを審議



井上敬介部会長

し、承認した。総会であいさつに立った井上部会長は「当部会は発足から9年経過し、今年7月現在で部会員は96社と順調に増加している。新たな工法の開発や工法知名度のさらなる向上などの取り組みに注力していくことで部会員のさらなる受注獲得につなげていきたい。今後も独自性を追求することで下水道のインフラ維持管理等に貢献できる協会として努めたい」と述べた。24年度は、審査証明取得を活用した啓発活動や積算ソフトの運用ならびに有効活用、交付金等を活用したマンホール対策の活性化などに取り組む方針。

上昇や高止まりは依然として続いている。一方で今年4月から働き方改革関連法による時間外労働の上限規制が新たに設けられ、トラックドライバーの残業規制や長時間労働解消に向けた取り組みが加速化しており、現状を認識したうえで当協会の活動を推進していきたい。現場のニーズに合わせた協会独自の豊富な工法ラインナップの強みを生かすとともに協会の専門技術者認定資格者、コンクリート防食技士資格有資格者増を目指すことで品質管理の重要性や管理技術の向上、市場でのさらなる認知度アップにつなげていきたい」と述べた。

さらに協会として現場の担い手不足に対する取り組みや環境問題に対応したカーボンニュートラルやSDGsなど社会の成長課題にも協会として取り組んでいく方針を示した。

24年度は、引き続きJ

ER専門技術者認定試験の実施・技術者の育成をはじめ展示会出展による協会の知名度向上やカタク刷新など市場認知化活動、コンクリート防食技士の啓発事業などに注力する。そのほか、技術研修会・セミナー等も開催していく方針。